

連載

マヌカハニーの可能性②

抗菌活性だけではない

ニュージーランドの夏である12月の期間だけ開花するマヌカの花から取れる特別な薬効を有するハチミツ「マヌカハニー」。古くから原住民のマオリ族が治療薬として使用していた歴史を持ち、現在ではニュージーランドにおいて食品としてのみならず医薬品としても使用されている。

シクロケム

日本国内でもマヌカハニーの抗菌性が着目され、食品として流通しているが、最近ニュージーランド・マヌカヘルス社とシクロケム(東京都中央区)の共同研究により、様々な機能が明

抗酸化作用による美肌・抗加齢効果も

ハニーは優れた抗酸化作用を兼ね備えていることから、美肌、アンチエイジングなどの分野でも訴求可能な素材であることが明らかになっている。

これは他の一般的なハチミツには含まれていないマヌカハニー特有の「シリング酸メチル」の働きによるもの。体内に取り込まれた酸素は細胞中のミトコンドリア内で糖質から電子をとり、スーパーオキソドアニオンラジカル、過酸化水素、ヒドロキシシジナルの順番に、より凶暴な活性酸素に変化していく。ヒドロキシシジカルになると遺伝子やタンパク質も損傷する。

シリング酸メチルは酸素が最初に生成するスーパーオキソドアニオンラジカル消去活性を特異的に有しており、他のハチミツよりも高い抗酸化作用が確認されている。

シクロケムでは抗酸化作用と抗酸化作用を併せ持つマヌカハニーのさらなる応用研究・開発を継続している。

◆ ◆ ◆  
マヌカハニーの抗菌力によるグレード分けは、これまでティスタ拡散方を用いて測定する「UMF」によって行われていた。しかし、ティスタ拡散方は抗菌性の有無を測定する目的の手法であるため、正確性に欠けるといっ指摘もされていた。そうした中、昨年1月、マヌカハニーの抗菌活性物質「MGO(メチルグリオキサル)」が特定された。MGO濃度と抗菌力が、比例していることからMGOが抗菌作用に由来していることは明らかで、今後マヌカハニーのグレード分けはMGOに切り替わっていくことが予想されている。